

明治から昭和にかけて活躍 伊丹の郷土史家、小林丹城さん

明治から昭和の初めにかけて、伊丹に小林丹城（本名・杖吉）という郷土史家がいた。公立図書館がなかった伊丹で私立図書館を運営、その後「郷土研究伊丹公論」という新聞を発行するなど、伊丹の文化向上に貢献した。今回はこの小林丹城さんを取り上げた。



明治末に私立図書館を開設

昭和50年9月発行の「伊丹史学」第2号によると、小林さんが伊丹市宮ノ前通りに私立図書館を開設したのは明治45年6月。大正末の地図から推察すると、現在の宮ノ前2丁目のみやのまち4号館付近。ここで私塾「三余学寮」を開き、子供たちに英、数、地歴、簿記などを教え、その月謝などで書籍を

購入、無料で貸し出していたという。

大正3年には巡回文庫を開始、蔵書も1万冊を超え、私立図書館としては、全国的にも異色の存在だった。その後、蔵書は和漢書、洋書など4万冊にのぼり、昭和11年度の「伊丹町勢要覧」によれば、県下公立74図書館中の第2位に名を連ねる主要図書館になっていた。

市立図書館ができたのは昭和26年

しかし、この年から休館するようになり、昭和18年に閉鎖、蔵書は伊丹市に寄付されたようだが、第二次世界大戦中とあつて、正式な記録はない。その後、伊丹市には図書館はなく、昭和24年に伊丹市文化協会が発行した「伊丹地方

社会読本」に「現在伊丹市には、図書館がありません。私たちは1日も早く立派な図書館のできるのを待っています」と記している。伊丹市に図書館ができたのは、これから2年後の昭和26年だった。

月刊紙「郷土研究伊丹公論」を発行

小林さんは、図書館を昭和11年に休館する一方で、この年の1月からタブロイド判、4ページだけの「郷土研究伊丹公論」の発行を開始している。この伊丹公論第1号の執筆者は、小林さんのほか俳諧研究の第一人者で伊丹町長や聖心女子大教授などを務めた岡田利

兵衛さんら当時の郷土史家たちで、いまでも参考になる文章がずらりと並んでいる。この伊丹公論も伊丹市政が施行された直後の昭和15年11月に発行された第19号で終刊となったが、小林さんの活動は、伊丹の文化向上に大いに役立った。

小林さんは鳥取出身で大阪医学校の教授も

小林さんは、明治4年12月、鳥取市生まれで、早稲田大学卒業後、大阪医学校（現阪大医学部）の教授となり、英語、数学、地歴などを教えていたが、しばらくして退職、出版社で辞典類や

教科書などの著述編集にたずさわった。大阪から伊丹に移住してきた時期は不明だが、明治45年6月に図書館を開設しているの、その数年前と見られる。昭和32年3月没。85歳だった。



現在の宮ノ前通り